



地元食と文化で、「ごきわがっけり」ファンづくり

第1回あわじ島「食と文化の祭典」



▲新鮮野菜や海産物を販売した「軽トラ市」。ASAトライアングル交流圏で鳴門市からも参加



▲個性ある10店舗が自慢のお好み焼きなどを販売した「焼きそば&鉄板焼き甲子園」

地元ならではの食材や文化で、地域のファンづくりと活性化をめざそうと、西淡まちづくり協議会が主催する第1回あわじ島「食と文化の祭典」が3月25日、ショッピングセンターシーパで開催され、約4000人が訪れて賑わいました。



▲辻調理師専門学校生による地元食材を使ったエビチリ&杏仁豆腐



▲西路地区祭礼団による子供だんじり唄

出店したスイーツ・お菓子のフロアも人気を呼んでいました。また、店内広場では文化発表会が行われ、子供だんじり唄や中学生の吹奏楽演奏、和太鼓やタップダンスの披露もあり、訪れた人たちを楽しませました。



▲御原中学校吹奏楽部による演奏



▲お客さんをおのみ込みそうな巨人の絵

うずの丘大鳴門橋記念館で4月1日、淡路島トリックアート展がオープンしました。トリックアートとは、遠近法や陰影法などを組み合わせることで平面的な絵を立体的に見せるユニークな芸術作品です。同館は作品を見るだけでなく、手で触れたり、撮影したりと体験できる施設となっています。



▲人が映らない鏡の部屋

つずの丘大鳴門橋記念館真が撮れるようになっていきます。これらは、実際に絵の作者に由来する、撮影ポイントの位置や照明の配置などを細かく設定しています。撮った写真はうずの丘のホームページから応募することもできます。

淡路島トリックアート展が開催

つずの丘大鳴門橋記念館

子どもの力を育み地域を活性化

阿万地区商工会活性化事業



▲浄瑠璃街道についての説明も行われました

市商工会南淡支部阿万地区のメンバーにより阿万地区の活性化事業が行われ、桜の時期である3月25日〜4月22日までの間、亀岡荘・大師庵周辺の桜が440個のLED球を用いた提灯によってライトアップされました。



▲だんじり唄を披露する阿万の子どもたち

体験をしてもらうことにより、地域に対する関心を深めて、地域の活性化につなげることを目的としています。子どもたちにだんじり唄の講演を行った倭文中学校校長の黒田紀子さん（阿万）は、「だんじり唄を通じて、子どもとお年寄りとの間で交流することもできる。今の子どもにも後の世代に伝えてもらいたい」と話しました。

その後、阿万地区公民館の茶道教室の人たちによる桜の木の下での野点も行われ、訪れた人たちにお茶とお菓子が振る舞われました。

同商工会阿万地区長の池本健さん（阿万）は「地元をよく知ること子どもたちに地元に残ってもらい、それを地域の活性化に繋げていきたい」と話していました。

桜鯛まつり開催

福良漁業協同組合



▲鯛茶漬けの振舞い

福良漁業協同組合で3月25日、「桜鯛まつり」が開催されました。

鳴門の荒波で育つことで身の締りが良い真鯛は、産卵を控えて豊富に栄養を蓄えるこの時期に旬を迎えることから「桜鯛」とも呼ばれます。



▲散策マップを発表する制作メンバー

市内出身力士が市長を訪問

照強・善富士・白海竜・坂邊

市役所中央庁舎において3月28日、市内出身の力士が中田市長のもとを訪れ、近況を報告しました。訪れたのは伊勢ヶ濱部屋の照強（福岡翔輝さん）、同部屋の善富士（南聖也さん）、宮城野部屋の白海竜（森本竜司さん）、鳴戸部屋の坂邊（坂邊尚弥さん）の4人です。



▲中田市長と並ぶ4人の力士

国生み神話散策マップ制作

南あわじ市活性化委員会

おのころ島神社で4月13日、「国生み神話散策マップ」の制作発表がありました。「歴史によるまちづくり」を目指す南あわじ市活性化委員会と国生みの里プロジェクトにより制作された散策マップは、国生み神話が色濃く残る榎列地区の史跡をめぐるものです。地元榎列地区、神戸大学の協力のもと実際に繰り返し散策・校正を実施し、制作されました。

同委員会の木田薫委員長は、「地域の人達にも市内の歴史を知ってもらい、みんなで市内外にその素晴らしさを発信したい」と話しました。